

第65回国民体育大会（ゆめ半島千葉国体）結果報告書 2010.10.8

栃木県テニス協会  
総監督：阿久津定之

1. 大会概要

- ・日程 平成22年10月1日(金)～10月4日(月)
- ・会場 千葉県立柏の葉公園庭球場  
柏市柏の葉庭球場  
柏市富勢運動場庭球場
- ・主催 (財)日本体育協会・文部科学省・千葉県  
(財)日本テニス協会・柏市

2. 試合方法

- ・競技は、各種別それぞれ3ポイント(単2・複1)とし、その勝敗は獲得したポイント数の多少によって決める。
- ・試合は、各種別とも都道府県対抗のトーナメント方式で行う。
- ・試合はすべて8ゲームズプロセット、セミアドバンテージ方式とする。
- ・試合は1回戦より勝敗決定後に打ち切る。また、同時進行の場合も同様とする。

3. 参加監督・選手・トレーナー

総監督：阿久津定之

1. 成年男子 選手：山口尚吾 鈴木佳太
  2. 少年男子 監督：毛塚英樹 選手：大橋可宏、目黒優貴
  3. 少年女子 監督：松本直人 選手：松重尚子、玉野奏海
- トレーナー：海老澤重一

4. 試合結果

成年男子 1回戦 対 群馬県：10月1日(金)

	栃木県	1 -	群馬県
S 1	山口尚吾	6 - 8	松田隼人
S 2	鈴木佳太	9 - 7	中澤博俊
D	山口尚吾 鈴木佳太	3 - 8	松田隼人 中澤博俊

少年男子 2回戦 対 新潟県：10月2日(土)

	栃木県	- 1	新潟県
S 1	大橋可宏	2 - 8	豊野潤也
S 2	目黒優貴	9 - 8 ( 8 )	豊野拓也
D	大橋可宏 目黒優貴	8 - 6	豊野潤也 豊野拓也

3回戦 対 神奈川県：10月2日(土)

	栃木県	1 -	神奈川県
S 1	大橋可宏	0 - 8	今井慎太郎
S 2	目黒優貴	4 - 8	高田航輝
D	大橋可宏 目黒優貴	打ち切り	今井慎太郎 高田航輝

少年女子 1回戦 対 富山県：10月1日(金)

	栃木県	- 1	富山県
S 1	松重尚子	6 - 8	大島志穂
S 2	玉野奏海	9 - 7	奥田真里
D	松重尚子 玉野奏海	8 - 5	大島志穂 奥田真里

2回戦 対 三重県：10月2日(土)

	栃木県	0 -	三重県
S 1	松重尚子	5 - 8	岡田優里
S 2	玉野奏海	6 - 8	江見優生乃
D	松重尚子 玉野奏海	打ち切り	岡田優里 江見優生乃

5 . 所感

千葉国体は、成年男子が柏市柏の葉庭球場、少年男子が県立柏の葉庭球場、少年女子が柏市富勢運動場の3会場に分かれて開催されたため、大会関係者も運営が大変だったと思う。しかし、我々もすべての会場で試合を見ることが出来なかったのは残念でした。

成年男子の初戦の相手は、関東勢同士で隣の群馬県との対戦で、お互いプレースタイルはよく知り尽くしていた。シングルス1の山口選手は、互角の打ち合いで先にブレイクされ1 - 3とリードされたが、山口選手のストロークが決まり出し、2ブレイクし6 - 4と逆転した。しかし、そこから松田選手も調子を上げストロークのミスが少なくなり、逆に4ゲーム連取され6 - 8で敗れてしまった。続くシングルス2の鈴木選手は、立ち上がり調子が悪く、5ゲーム連取されお互いブレイクし1 - 6とされたが4ゲーム連取し5 - 6とした。相手もサーブをキープし5 - 7と後がなくなったが、そこから再び4ゲーム連取して9 - 7で勝ちダブルスに望みをかけた。ダブルスは群馬からサーブでいきなりプレー

クしたが、2ゲームのゲームポイントのとき、相手がやっと返したボールをネットにかけサーブをキープ出来ず、逆にブレイクされ1 - 1となり、そこからお互いキープし鈴木選手のサーブが0 - 40と追い込まれたが、何とかキープし3 - 3となった。次の相手のサーブをブレイクできるチャンスがあったがキープされ、逆に相手が波に乗り、2ブレイクされ3 - 8で敗れ初戦敗退となった。

少年男子は今回第15シードのため、2回戦からの登場でした。初戦の相手は、新潟県で昨年国体が開催されたこともあり、ジュニアから強化され初戦の相手には、シングルス1、2とも8 - 1で勝ち上がってきたチームで二人は兄弟でした。シングルス1の大橋選手の相手は1年生の弟でしたが、思いっきりのいいプレーでストロークの調子が良く、2 - 8で落としてしまった。シングルス2の目黒選手は接戦で6 - 7、15 - 40で相手のマッチポイントが3回あったが、サービスエースを取る積極的なプレーで追い付きタイブレイクに持ち込んだ。タイブレイクに入っても接戦が続いたが10 - 8で勝利した。ダブルスに入るとお互いサーブがキープ出来ず5 - 5まで競っていたが、最後まで相手のサーブをブレイクし8 - 6で勝利した。続く3回戦の相手は、第2シードの神奈川県で相手のシングルス1の今井選手は今年の全日本ジュニアで準優勝した選手でフォアのストロークのスピードがある選手でした。大橋選手もラリーで粘りポイントは取るが最後までゲームが奪えず0 - 8で負けてしまった。シングルス2の目黒選手はサーブの調子が良く、サーブでポイントを稼いだが、相手のストロークが深く安定し、相手のサーブをブレイク出来ず4 - 8で敗れ今年もベスト8には惜しくも入れなかった。

少年女子は1回戦富山県との対戦でした。シングルス1の松重選手は、サーブの調子もよく、立ち上がり深いストロークで相手のミスも誘い、4 - 1でリードしたが、相手も徐々に調子を取り戻し、逆に松重選手のミスが目立つようになり4 - 4と追い付かれ、サーブキープし5 - 4となったところで、松重選手が手首を痛めるアクシデントが起きた。トレーナーを呼び治療を受けたが5 - 6とされ、再びトレーナーを呼びテーピングをしながら、調子が戻らず6 - 8で負けてしまった。しかし、シングルス2の玉野選手が接戦をものにし9 - 7で勝ちダブルスに勝負をかけた。ダブルスも接戦末8 - 5で勝ち、初戦を勝利で飾った。続く2回戦の相手は第13シードの三重県で、松重選手は前日痛めた手首の調子が良くなり、本来のテニスが出来なかったが最後まであきらめず戦ったが5 - 8で勝利することは出来なかった。続く玉野選手も接戦で6 - 7サーブで追い付けるところで、サーブキープ出来ず6 - 8で落とし、惜しくも3回戦に駒を進めることが出来なかった。

今年も残念なら、どの種目もベスト8に届きませんでした。来年こそベスト8に残れる様頑張りますので、今後ともご支援、ご指導よろしくお願いいいたします。また、県体育協会をはじめ関係者の皆さんには、応援に来ていただきどうもありがとうございました。